

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 238 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2016. 12.21

日本の近代建築の再考について

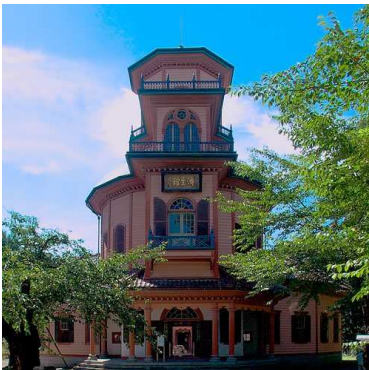
話：三沢浩

—新たな研究と教材の検討 その3 —『日本の近代建築』全体について—

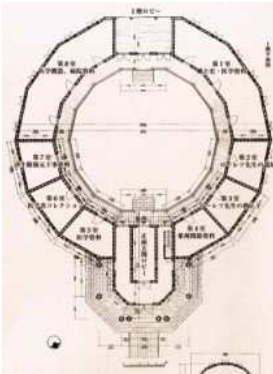
■ 寺子屋 238 は6人の参加で開催されました。

■ 近代建築という翻訳言葉が明治からの様式建築を含むことは、モダニズム建築を考える上で混乱要因となってきました。そのことは西洋に見られた様式建築とモダニズム建築の断絶を考慮に入れると、確かに課題です。

■ けれど、日本の近代がその期間ずっと欧米からの移入と翻訳そしてその洗練という過程であったとすると、不連続は連続します。移入と翻訳に見られる旺盛な活力、洗練に見られる驚くほどの適応力などは、常に消長を繰り返しながらもつながっていきます。では、近代において内発的に生み出された根本思想はあるのか。たとえば、F・L・ライトやレーモンド、藤井厚二などは環境との真摯な応答に日本の近代建築の可能性を見出したのかもしれませんが。それが何だったのか、その手がかりを探していきたいと思います。イムの転換としての意義を見ていく必要があります。



済生館(明治 12 年)



長野宇平治:大倉精神文化研究所(昭和 7 年)

新建・寺子屋(モダニズムの研究)237

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再

2016.12.21 話:三沢浩

日本の近代建築の再考について

新たな研究と教材の検討 —その3

—『日本の近代建築』全体について—

1. 前回の「近代建築」の考え方について再考

1) 「近代建築」という言葉のこと

2) 藤森のいう「モダニズム・デザイン」という言葉

3) これから用いる「近代建築」と「モダニズム・デザイン」

2. 藤森著の「上巻」の概要とポイント

1) 2つの「コロニアル」の流れについて再考

2) 冒険技術者による西洋館とは

3) 棟梁たちの西洋館とは

4) 文明開化の華とは

5) 本格的建築家のコンドル以後

6) 日本人建築家の誕生

3. 藤森著の「下巻」の概要とポイント

1) 明治から大正へ、自覚の世代の表現

2) 歴史主義(アメリカ派)について

3) 社会政策派とは何か

4) モダンデザインと初期モダニズムについて

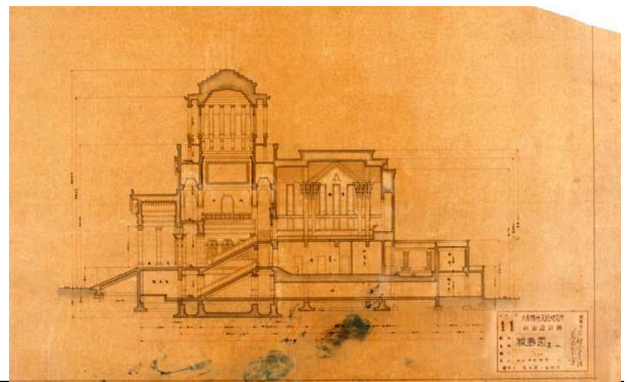
4. 初期モダニズムにおけるレーモンドの位置づけ

1) 「霊南坂の自邸」の評価とペレー色、「夏の家」など

2) 本野精吾に対する評価、坂倉の評価

3) 丹下、前川、村野のそれぞれの方向

5. 次回から「下巻」全体の通しをはじめたい



次回 <寺子屋 239> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信『日本の近代建築』の研究

話：三沢浩

2017年 1月 18日 (第3水曜日定例) PM 7:15~

場所: 新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費: 400 円

問合せ: 大崎元 (有)建築工房匠屋 03-3716-1743 3716-8459(fax) VED03705@nifty.com